

## モロッコ国別評価のサマリー

### 1. 評価結果

#### (1) 目的の妥当性

わが国の対モロッコ援助政策は、モロッコの開発ニーズとの整合性が高く、妥当と判断される。特に、モロッコの中心的な開発課題である「格差是正・貧困削減」を6重点分野の一つに設定したと同時に、他の重点分野においても横断的に対応していたことは、適切である。ただし、援助政策の論理構成をみると、基本方針と重点分野との関係、横断的視点が体系的に整理されておらず、総花的で戦略性に乏しい。

#### (2) 結果の有効性

全般的に各事業レベルで対象地域の生活状況改善や、モロッコ側援助機関・人材の能力向上などの成果が確認された。特に水資源開発(灌漑、飲料水供給)とインフラ整備(道路、電化)におけるインパクトが大きい。農水産業・水資源・運輸インフラ整備等は経済成長のための基盤づくり並びに地方部における生活状況の改善という成果を挙げただけでなく、援助方針および重点分野である「格差是正」に貢献した。

#### (3) プロセスの適切性

日本側関係者によるモロッコの開発ニーズの的確な把握および緊密な連絡に加え、モロッコ側との協議・意見交換が適切に行われたことにより、先方のニーズおよび日本の重点分野に沿った案件を効果的に形成・採択することができた。ただし、日本の案件採択手続上の課題から、モロッコ側が求めるタイミングでの事業実施ができない場合がある。これに対しては、現在援助予測性の向上(中期的な援助事業実施計画の導入等)などを通して改善に向けて努力をしている。

### 2. 主な提言

- (1) 援助方針に沿った重点分野の絞り込みにより援助の戦略化をはかる。
- (2) 「人間開発に係る国家イニシアティブ」の精神に則り、貧困削減・地域格差是正を引き続き重視しつつ、絞り込んだ支援対象地域において、セクターの枠を超えてスキーム連携を積極的に行い、総合的な地域開発を推進する。
- (3) 貧困層・社会的弱者およびジェンダーなどへの配慮を強化する。
- (4) 案件形成・採択にかかる手続きの迅速化・透明性向上をはかる。
- (5) 多様なスキームの活用、スキームの連携強化、連携パターンの多様化をはかる。
- (6) 援助効果向上に向けて、現地体制の強化を行い、また、他ドナーとの多様な協力の可能性を模索する。
- (7) 北アフリカ・サブサハラアフリカにおける三角協力の拠点としての可能性を調査する。